

## 平成25年度 みどり清朋高等学校 第1回学校協議会 報告

日 時 平成25年6月15日(土)午前10時～12時  
場 所 本校校長室  
出 席 者 三坂会長、中尾委員、定井委員、福井委員、荻本委員、高田委員、  
坂東委員、古川委員  
久木元校長、小河原教頭、島事務長、乗田首席

### 1 校長挨拶

昨年度入試に伴うミスについて謝罪するとともに、今後、教員へ改善の徹底を指示し、二度とこういうことがないように緊張感を持って当たりたい。また本年度の重点目標に、授業力の向上や組織力の強化を掲げており、府が主催する「学校経営推進事業」に選ばれたこともあり、ICT機器の活用を核に、学校力の全体的なアップを図りたい。

### 2 報 告 (久木元校長)

資料に従って、校長から以下の報告があった。

#### (1)「府立高校を取り巻く教育環境」について

私学無償化や入試制度改革など、公立高校には大きな環境変化が現れている。また、教育三条例の実施に伴って、従来のような学校経営を脱皮し、新たな指針を策定する状況に至っている。本校でもこうした変化を捉え、前向きに努力していく決意である。

#### (2)「府立高等学校再編整備方針」について

本校のような普通科総合選択制の高校は、近い将来「総合学科」「専門コース制」といった学校に改編整備される方針が示されている。本校としては今後どのような在り方がベストなのか、プロジェクトチームを立ち上げて検討していきたい。

#### (3)「平成25年度入試 受験者動向」について

前期と後期の受験者の内訳、及び中学校別・地域別の受験者動向を分析した結果、一部の東大阪市北部の中学校の志願者減が気にかかる。中学校側への説明や広報を含めて、工夫していきたい。

#### (4)「学校経営推進事業」参入について

ICT機器を中心に学校改革を実施するべく、学校経営推進事業への参入を求め、プレゼンテーションを行った結果、本校が選ばれることとなった。「学ぶ意欲の向上」、「授業力・進路選択力の強化」「組織力の強化」に向けてこの事業を成功させ、ICT機器を有効活用していきたい。

#### (5)「授業力向上の取り組み」について

昨年度は、教育センターの主催する「パッケージ研修」の支援を受け授業力向上に取り

組んだ。また、年間二回の授業アンケートの結果から、生徒の授業満足度などが向上したことが分かった。本年度は、昨年の実績を踏まえてより一層の授業改善に努めていきたい。特に ICT 機器の活用や、授業の質を上げるための目標である「みどりスタンダード」の実現に向けて、教員相互の授業参観や研究授業をより一層深めていきたい。

(6)「生活実態アンケート」について

昨年度末に、現2・3年生に実施した「生活実態アンケート」によると、本校生徒の問題点が明らかになった。就寝時間がかかなり遅く、一日の携帯電話使用時間が3時間を超える者もいるなど、生活の改善を求められる生徒が多い。学習時間の確保などが課題だ。

(7)「地域連携について」

本年度も、池島小学校や池島中学校、花園中学校、池島連合自治会等、幅広い地域交流の計画を用意している。

また、池島町自治会等のご協力により、かねてからの念願であった本校北側の街路灯設置が実現する見通しが立った。この場を借りてお礼を申し上げたい。近隣の地域との交流や、学校のイメージアップの成果と捉えることができると思う。

【主な質疑】

高田委員：統廃合について、将来の見通しはどんなものか。

久木元校長：26年度をピークに生徒数が減少していく。統廃合の数については、公私間の高校の競争や府立市立の高校統合など、不透明な部分が多いので、府教委も苦慮しているようだ。

三坂委員：入試改編で学力層の変化はあったのか。また、前期入学者と後期入学者とのミゾはあるか。

久木元校長：学力については、昨年と今年では入試制度が違うので単純には比較できない面がある。現在のところ生徒間にミゾがあるようには特に感じてはいないが、見守っていきたい。

3 授業見学

3時限目の授業の見学を行った。全学年の授業の様子を巡見するとともに、特に ICT を活用した2年生の「地理」の授業を教室内で見学した。

4 協議

(1)「授業力の向上」について・・・授業見学を見終えて

【主な質疑】

坂東委員：プロジェクターを使用していたり、グループワークをしていたり、生徒同士の話し合いが新鮮で良かった。

高田委員：スクリーン英語の授業で映画を上映していたが、音が外に漏れていたのが隣の

教室に迷惑がかかっていないか気になった。また、プロジェクターを利用している授業では資料の多さに驚いたが、資料探しはどうしているのか。

小河原教頭：資料作成には手間がかかっているが、一般に公開してネットで取り入れ可能なものもある。

久木元校長：ICT 教材は共有化できるので、他の教員の負担軽減にもつながる。また、どの先生でも同じレベルの授業をすることが可能というメリットもある。

古川委員：どうすれば生徒が授業に参加するのか先生方も工夫されていた。生徒たちのことを考え、興味を引き出してくれているように思えた。

久木元校長：先生が授業にどれだけ手間をかけ準備をしてくれているか、生徒たちは敏感である。

荻本委員：ICT の活用方法にも、もう少し改良の余地がありそうだ。受動的な授業からアクションを起こさせる授業が必要かもしれない。

久木元校長：生徒の興味を引き出し、英語に触れさせることが目的であるが、一段高い段階にどのように進めていくかが課題である。

中尾委員：少人数授業で良く集中していたのが良かった。

福井委員：みどり清朋の生徒は「善良・親切」というイメージがあるが、もう少し背中を押してやればもっと力を発揮するように思う。小高連携で見せてくれる生徒たちの姿は、頼もしくて自己肯定感や自尊感情が高まっているなど感心している。授業においては、子どもたちが授業の中でどれだけ活躍するかが小学校では大事だ。高校でも、もっと生徒たちを動かしてはどうか。少し先生のしゃべる量が多い気がする。その点昨年のパッケージ研修の授業はとても良かった。アクティブな授業を望みたい。ITC を使った授業では、資料の分量が多すぎたように思う。もう少し絞った方が生徒には理解しやすいのではないか。また、授業のねらいをしっかりと板書することも大事だ。小学校では黒板一枚がその日の全てで、途中で消したりはしない。

定井委員：野球部の生徒が立ち止まってあいさつをしてくれていることに驚いた。素晴らしい。また、みんなが授業をきっちり聞いているのも良い。しかし、ほとんどの授業が講義形式であったため、グループ学習などの工夫が大切だ。グループの人数は3～4人程度が適切で ITC を使用したりすることも含めて、コミュニケーション能力の育成にもつながる。

中尾委員：全校の生の授業の様子を見ることができて良かった。学校が一体となって授業改革を進めていることが良く分かった。また府の事業にも応募し、校長が率先して環境づくりをしている。とても頼もしく感じている。ICT の活用にも板書以上の力が必要だ。生徒を受け身にさせない教材づくり、先生間の共有化が課題だ。生活実態調査の報告があったが、睡眠時間や携帯電話、アルバイトなどにかかる時間など問題も多い。家庭の経済状況もあり、難しいだろうが、生徒指導や進路

指導でも生徒の可能性を引き出す余地はある。部活とアルバイトなど、複合的に分析する必要がある。

三坂会長：授業中に寝ている生徒が気になった。プリントを毎回配って提出させるなどの方法もある。ITC 授業では、資料の多さもあるが、肝心な部分はゆっくり説明することが重要だ。また古典的な授業にも良い点がある。今回見せてもらった中にも、板書の工夫や文字の美しさ、構成方法が素晴らしい先生もいた。一方、ICTを導入しても人が変わると使われなくなるケースも多い。次につなげていくことも大切だ。私の好きな言葉に「持ち味」ということがある。教員が「持ち味」を活かして授業を行うことは難しいが、授業の質を上げる上で大事なことだと考えている。

高田委員：ICT をいかに引き継いでいくか、年代によっては扱えない場合がある。40代の教員が少ないと聞いたが、この年代は授業への活用の仕方に長けている。若い人はすぐに使えるが授業でのノウハウがない。

久木元校長：本校の平均年齢が49歳なので、困難な部分はある。若手の教員には、ICT化を進めていきたい。

福井委員：書画カメラなどは据え置いているとよく使ってくれる。小学校でも児童の作ったノートを写しだして、活用したりしている。

久木元校長：50分間使う必要はない。少し使うだけでも効果は大きいと考えている。

三坂会長：教科書や地図にある図版を書画カメラで投影し、生徒にその部分を探せるなど工夫もできる。

久木元校長：これからの研究材料だ。他校の実践例も見に行く予定である。

## (2) その他

### 【主な質疑】

#### ① 26年度教科書採択について

小河原教頭：選定作業の資料をご覧いただき、審議をお願いしたい。日本史の教科書をはじめ、本校では主にスタンダードな内容のもの、進学校に準じたレベルのものを採用している。

三坂会長：教科書の採択に関して了承としたい。

#### ② 学校協議会への提言に関して

小河原教頭：学校協議会への提言ポストには、今まで提言は寄せられていない。

#### ③ 次回の開催について

久木元校長：第2回は10月9日、第3回は2月10日としたい。

## 5 最後に

最後に、今後のご支援とご協力を期待する旨、校長よりの感謝の言葉があり、散会となった。